

ここを拠点に農業でチャレンジしています



岡田 晃英 さん

大阪で出版物のレイアウトデザイナーなどを手掛けていましたが、将来を考えた時に「農業」のほうが可能性和あるのではないかと考えるようになり、農業学校に入っ、お茶の栽培法などを学びました。その後縁あつて大川地区に住み、今ではお茶とお米を作っています。作ったお米を主に大阪で販売しているのですが、お客さんから、

スーパーマーケットのお米と比べて格段においしいと評判です。これから、さらに手間をかけ試行錯誤を重ねながら、もっとおいしいお茶とお米を作っていきたいですね。舞鶴の人と結婚し、今年子どもが生まれました。加佐地域に、もっと移住する人が増えて、子どもの数が増えていくといいなと思っています。



私たちは舞鶴を選びました

人生の転換点で生活拠点が変わることがあります。今回は、その転換点で舞鶴を選んだ4人のお話を紹介。また、空き家バンクを利用して移住者を受け入れていらっしゃる方のお話も紹介します。

決断の先にも舞鶴がありました

森下 美里 さん



栄養士の資格を持ち、市内の保育園で働いていましたが、「自分のお店を経営してみたい」という思いが強くなり、以前から趣味で作っていたパン作りでお店を開こうと決心しました。パン作りを一から学ぶために舞鶴を離れて4年間、関西のパン屋で働かせていただきました。けれども、出店する場所は舞鶴以外には考えていませんでした。生まれ育ったこのまちに、こんな感じのお店があつたら「嬉しい」「楽しい」と思うお店を作れたかつたから

です。出店する場所を探していたところ、知り合いから中央商店街の空き店舗の情報を教えてもらい、1年の準備期間を経て開店することができました。空き店舗の活用には、市の補助制度を活用させていただきました。今では、思っていたよりも多くのお客さんに来店していただいています。お客さんから「おいしい」と言ってもらえたとき、ここでパン屋を開いてよかったなど実感しています。



自然豊かな勤務地に住みたいと考えていました

平松 泰樹 さん



に帰郷する時にも便利ですし、最初からずっとここに住みたいと考えていました。結婚をして子どもも生

まれ、家も建てました。趣味でランニングをしているのですが、自然を満喫しながら走るのとても気持ちよいものです。コースも自分で組み立てて走っています。クレインブリッジを渡るときの爽快感は格別ですね。休日には、よく子どもと一緒に青葉山ろく公園に遊びに行くのですが、最近公園内の池でザリガニ釣りをしているんです。

自衛官だった父に憧れて私も自衛官になり、舞鶴での勤務は25年ぐらになります。都会より、のんびり生活できるところが自分に向いていると思っていたので、自然豊かな舞鶴はちょうど良い感じのまちでした。石川県にある実家に

生まれ、家も建てました。趣味でランニングをしているのですが、自然を満喫しながら走るのとても気持ちよいものです。コースも自分で組み立てて走っています。クレインブリッジを渡るときの爽快感は格別ですね。休日には、よく子どもと一緒に青葉山ろく公園に遊びに行くのですが、最近公園内の池でザリガニ釣りをしているんです。



いつかは戻るのかなと思っていました

岡山 拓也 さん



生まれ育った舞鶴を出て木製雑貨のメーカーでデザイン関連の仕事をしていました。東京支店や直営店の立ち上げにも関わり、刺激的で充実した毎日を送っていました。でも、いつかは生まれ育った舞鶴に戻るんだろかなという思いは心のどこかにありました。約半年前に、Uターンの決断をして戻りました。住居は市の空き家情報バンクを利用しました。まずは佐波費で親戚が行っているカキの養殖を手伝いながら学び、販売を始めました。SNS

を使ったネット販売などは妻にも支えられています。戻ってから改めて舞鶴の良さを実感し、今まで気が付かなかった魅力にも出会いました。自然豊かな環境で子育てができるのもうれしいですね。漁業は毎日が驚きと発見の連続で、とてもワクワクしています。漁師としてはまだまだ未熟なので、早く一人前の仕事ができるよう頑張ると共に、これまでの経験を生かして自分にしかできないことにもチャレンジしていきたいです。



空き家バンクを利用して移住者の受け入れ



弓削 寿さん (上漆原地区)

引っ越しされたお隣さんの空き家を買取り、倉庫として使っていました。人が減りさびれていくのをなんとかしたいと思い、市の農村集落空き家情報バンク登録しようかと、集落の住民の皆さんに相談。夜に家の灯がつくだけでもありがたい、地域に活気を取り戻したいの思いは同じで、理解していただきました。市に移住希望者をマッチングしてもらい、私の物件には平成12年から延べ3組が入居されました。今年4月には大阪から20代の若者が狩猟の夢をもって移住してきました。これまで任んでこられた2組も引き続き舞鶴に定住されています。移住者を受け入れ始めてから17年。今では上漆原の集落に10組が移住し、地域を支えています。子どもたちの声も聞こえますし、お祭りやその後の宴会も楽しく、本当にありがたいと思っています。今後空き家は増えると思います。所有者、自身のためにも、集落のためにも、空き家の活用を、近所や市に相談されることをお勧めします。